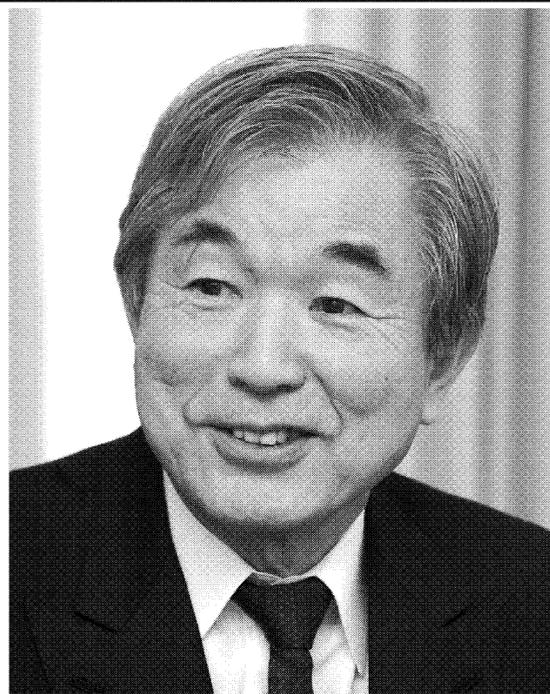


キヤノン電子

キヤノン電子に見る「環境経営」

「3R(リデュース、リユース、リサイクル)」が収益を生み、人を育てる



キヤノン電子株式会社 社長 酒巻 久氏

キヤノングループの一員としてデジタルカメラ用シャッター、レーザープリンターやデジタル複合機用のスキャナーユニットなどを生産するキヤノン電子。独自製品としてハンディターミナルをはじめとする電子情報機器やFA機器なども手掛けてモノづくりの技を磨き、収益面でも大きく貢献している優等生だ。ムダと不良を徹底排除する生産性向上活動を推し進め、高収益体質を築いた酒巻久社長に、標榜する「環境経営」の実践と今後の事業展開について聞いた。

社員の力結集して生産性向上

井水 2010年12月期連結決算発表で、営業利益、経常利益が過去最高を更新するなど業績が急回復、というよりも急伸しています。何か秘訣があるのでしょうか。

酒巻 当社に限らず、10年は世界中の製造業が幸運に恵まれていました。08年秋のリーマン・ショックが翌年にかけて世界経済に深刻な影響をもたらした。各国政府が危機感に打ち出した景気対策の効果が10年初めからかなり出てきました。リーマン・ショック前の状態まで完全復活できなかったとしても、07-08年のピーク時に比べ業績を上げたところが多岐にわたります。

問題はさまざまな景気対策が生み出した需要を、十分に受け取る体制を整えていたのかという点です。生産費を削減するリーマン・ショックで生産体制を「一気に縮小」し、目の前の仕事をみすみす逃してしまつたメーカーが散見されました。

省エネ・省資源でコストダウン

酒巻 環境対策として企業が現実に採り得るのはリデュース(廃棄物の発生抑制)、リユース(製品の再使用)、リサイクル(再生資源の利用)の「3R」しかありません。それに伴ってエネルギー消費を減らす、環境負荷低減にはリデュースがいちばん有効な方法です。ありとあらゆる分野でムダを排除してリデュースに努め、徹底して省エネ・省資源を進めればコストダウンになるのです。環境経営を推進することが収益性を向上させ、企業価値を高めていくのです。

井水 世間では環境問題を企業の社会的責任(CSR)の側面からとらえる向きがあり、儲からないと思われがちですが、そんなことはないです。

酒巻 当社グループは世界トップレベルの高収益企業を目指し、生産性向上活動と「3R」を中心とした環境活動に全社員で取り組む経営全般でムダの排除を徹底的に推し進めてきました。今後もその基本方針は変わりません。平たく言えば「環境は儲かる」ので、考えようによっては、正しい経営の証ともいえるのです。

井水 ムダの排除では「まず半分」といった大胆な目標を掲げ、見事に達成されました。さらに「4分の1」をハードルを上げるなど、取り組をいっそう深化しています。

酒巻 目標はシンプルで、達成後の状況がイメージしやすいことが重要です。99年にスタートしたムダ排除活動(TSS)は、タイム&スペース・セービング(1)と「時間、生産スペース、エネルギーの使用量、不良品、人の移動距離、二酸化炭素(CO2)排出量など、工場だけでなく開発や管理を含め、全部で半分削減しました」。

ムダを削減して2分の1、4分の1にすれば、後工程で効果が波及的に大きくなり、地球環境への低減効果はその数倍にもなります。いま使っているものを10分の1に減らせば、自然界の自浄作用で元に戻せるかもしれない。同時に「減らす」ということは、コストダウンにほかならないのです。併せて、使用する化学材料を生き物に無害なものにするのが当然です。それを徹底的に追求することが、地球全体の生態系バランスを保つことにもなります。

井水 高収益成長を引き出す従来のモノづくりは不良品をばいばいで、顧客への供給責任を果たしてきました。ただし「ばいばい」は「捨てる」に等しかった。本当に環境という意味で品質を考えたら、「100入れたら100出る」という直行率100%の良品ゼロの工程が理想になります。

それはすなわち、会社の利益に直結します。

繰り返すには、環境に優しい「ゼロ」を目指すのが「環境」になります。

ですが「環境」に優しい「ゼロ」を目指す工場にとっては、もうひとつのコストダウンになるのです。

直行率100%を実現

現すれば商品価値が高まって検査工程も不要になり、生産現場をコンパクトに収めることができます。

これまでの取り組みの成果で当社の工場は現在、直行率99.999%が基本です。実際、納入不良の原因となることはまずありません。そんなことが起これば、川下で付加価値の高まった製品を捨てざるを得なくなってしまう。私の経験から言えば、生産コストは割れやすい下がります。

環境経営が人を育て、商品価値を高めて収益を生む。利益を出すことは決して悪ではありません。企業の存在価値は適正な利潤を上げ、それを社員や株主に還元するだけ、納税を通じて国や地域にも公正に還元することにあるはず。税金を納められない企業ばかりでは、日本経済は成り立ちません。

井水 自然豊かな埼玉県秩父市で生まれ育った企業として、社外における環境保全活動にも熱心に取り組まれているようですね。

酒巻 山の緑豊かな秩父市は、植林活動は、これまで数万人にわたって行われてきました。都府県の水源地である荒川上流に拠点構えているからには、下流の人々に迷惑はかけられません。「おさんいもいもを」というものづくりの発想と二階です。初めて参加する新入社員たちは「何で植林、山の手入れ。」と感じますが、これが変わるんです。「やっぱり大事な仕事なんです」。

会社に戻ればまず節水だけでなく、節電・節ガスに努めます。それが環境経営すべてにつながっていくのです。江戸時代から続く植林・計画伐採は、自然環境の大切さを知っている日本人が世界に誇れる文化でもあるので、

5年計画で1500億円目指す

井水 最後にになりましたが今後の業績見通しと事業展開についてお教え下さい。

酒巻 前期も増収増益を予想していますが、2011年73期も増収増益を予想しています。デフレ基調で厳しい経営環境が続きますが、生産性向上活動によるムダと不良の徹底排除を突き、高機能、高品質、低コストの製品を提供していきます。世界トップレベルの高収益企業となるべく、売上高経常利益率15%を目標と定めています。

指しており、同比率では前年度に比べ1ポイントアップの13%を見込んでいます。生産性向上とともに新事業展開を進めます。親会社のキヤノンがカメラで培った光学技術を生かして複写機などに展開したように、キヤノン電子はコアとしてスキャナー技術で優位性があり、それをベースとした展開がメインになります。企業の合併・買収(M&A)についてもこれまでどおり、前向きに考えています。販売で相乗効果が期待できるスキャナー技術関連のソフトウェア会社などがターゲットになるでしょう。

将来の事業につながるベンチャー支援も手掛け、新事業の芽がどんどん出る会社にしたいですね。今まで以上に世界市場へ目を向け、必要があり、外国人材の採用も増やします。人材育成と併せて、新事業の芽を大きく育てられるような環境づくりに取り組んでいます。また、環境経営の延長線上で製品化した業務用の生ゴミ処理機も、かなり売っていきま。ゴルフ場でレストランの食べ残しを肥料にして散布する「おさんいもいも」の緑のイメージを維持できる」と評判です。社員教育の観点から、知恵の新しい分野へ挑戦することの醍醐味を体験させる意味合いもあります。

井水 中長期的な事業計画はありますか。

酒巻 前年度の売上高は1211億円、今年度は1230億円を見込んでいますが、5年計画で1500億円を目指しています。経常利益は目標とする利益率15%を達成する225億円になります。それを達成するために新規事業を含めての目標は、1500億円を補うのか、具体的な検討作業に入りました。

井水 お話を聞いています。その達成も間違いのないような気がしますが、本日はありがとうございました。

環境経営実践で人間の基礎づくり

井水 社員教育の観点からも、環境経営を徹底する意味があるとお聞きしました。

酒巻 環境を大事にする人間は優しいです。環境の基本は、自分が汚して他人に迷惑をかけるだけにする。我々が次の世代にできるだけ、いいものを残してあげたいと思うのは、優しさがあること。環境経営は社員を思いやりのある人間に変えることができるテーマなんです。

周りに迷惑をかけず、次の人が困らないようにやるのが習慣として身に付けば、企業は必ず儲かるようになります。次の人のことを考えずにやるから不良やトラブルが起るんです。一方の指示や伝達にのみ、確認し合うだけでもミスは激減します。企業は良好な人間関係が基本であり、コミュニケーションの第一歩となるあいさつが根付くだけでも大きな効果が出ます。

「環境」とは、人間の考え方そのもの。環境

経営の実践が人間の基礎づくりになるのです。利己的にならず、子供のころのようにもろいことを純粋に見て素直に受け入れ、咀嚼して迅速に行動を起こせるようになってきます。

一方、地球温暖化についてはさまざまな意見があるように、環境問題では抽象論を交わす議論の機会も多くなります。抽象論を交わす問題を的確にとらえることは、社会人に求められる素養の一つ。それを通じて創造力が養われます。

環境経営が人を育て、商品価値を高めて収益を生む。利益を出すことは決して悪ではありません。企業の存在価値は適正な利潤を上げ、それを社員や株主に還元するだけ、納税を通じて国や地域にも公正に還元することにあるはず。税金を納められない企業ばかりでは、日本経済は成り立ちません。

井水 自然豊かな埼玉県秩父市で生まれ育った企業として、社外における環境保全活動にも熱心に取り組まれているようですね。

酒巻 山の緑豊かな秩父市は、植林活動は、これまで数万人にわたって行われてきました。都府県の水源地である荒川上流に拠点構えているからには、下流の人々に迷惑はかけられません。「おさんいもいもを」というものづくりの発想と二階です。初めて参加する新入社員たちは「何で植林、山の手入れ。」と感じますが、これが変わるんです。「やっぱり大事な仕事なんです」。

会社に戻ればまず節水だけでなく、節電・節ガスに努めます。それが環境経営すべてにつながっていくのです。江戸時代から続く植林・計画伐採は、自然環境の大切さを知っている日本人が世界に誇れる文化でもあるので、

5年計画で1500億円目指す

井水 最後にになりましたが今後の業績見通しと事業展開についてお教え下さい。

酒巻 前期も増収増益を予想していますが、2011年73期も増収増益を予想しています。デフレ基調で厳しい経営環境が続きますが、生産性向上活動によるムダと不良の徹底排除を突き、高機能、高品質、低コストの製品を提供していきます。世界トップレベルの高収益企業となるべく、売上高経常利益率15%を目標と定めています。

指しており、同比率では前年度に比べ1ポイントアップの13%を見込んでいます。生産性向上とともに新事業展開を進めます。親会社のキヤノンがカメラで培った光学技術を生かして複写機などに展開したように、キヤノン電子はコアとしてスキャナー技術で優位性があり、それをベースとした展開がメインになります。企業の合併・買収(M&A)についてもこれまでどおり、前向きに考えています。販売で相乗効果が期待できるスキャナー技術関連のソフトウェア会社などがターゲットになるでしょう。

将来の事業につながるベンチャー支援も手掛け、新事業の芽がどんどん出る会社にしたいですね。今まで以上に世界市場へ目を向け、必要があり、外国人材の採用も増やします。人材育成と併せて、新事業の芽を大きく育てられるような環境づくりに取り組んでいます。また、環境経営の延長線上で製品化した業務用の生ゴミ処理機も、かなり売っていきま。ゴルフ場でレストランの食べ残しを肥料にして散布する「おさんいもいも」の緑のイメージを維持できる」と評判です。社員教育の観点から、知恵の新しい分野へ挑戦することの醍醐味を体験させる意味合いもあります。

井水 中長期的な事業計画はありますか。

酒巻 前年度の売上高は1211億円、今年度は1230億円を見込んでいますが、5年計画で1500億円を目指しています。経常利益は目標とする利益率15%を達成する225億円になります。それを達成するために新規事業を含めての目標は、1500億円を補うのか、具体的な検討作業に入りました。

井水 お話を聞いています。その達成も間違いのないような気がしますが、本日はありがとうございました。

環境経営実践で人間の基礎づくり

井水 社員教育の観点からも、環境経営を徹底する意味があるとお聞きしました。

酒巻 環境を大事にする人間は優しいです。環境の基本は、自分が汚して他人に迷惑をかけるだけにする。我々が次の世代にできるだけ、いいものを残してあげたいと思うのは、優しさがあること。環境経営は社員を思いやりのある人間に変えることができるテーマなんです。

周りに迷惑をかけず、次の人が困らないようにやるのが習慣として身に付けば、企業は必ず儲かるようになります。次の人のことを考えずにやるから不良やトラブルが起るんです。一方の指示や伝達にのみ、確認し合うだけでもミスは激減します。企業は良好な人間関係が基本であり、コミュニケーションの第一歩となるあいさつが根付くだけでも大きな効果が出ます。

「環境」とは、人間の考え方そのもの。環境

経営の実践が人間の基礎づくりになるのです。利己的にならず、子供のころのようにもろいことを純粋に見て素直に受け入れ、咀嚼して迅速に行動を起こせるようになってきます。

一方、地球温暖化についてはさまざまな意見があるように、環境問題では抽象論を交わす議論の機会も多くなります。抽象論を交わす問題を的確にとらえることは、社会人に求められる素養の一つ。それを通じて創造力が養われます。

環境経営が人を育て、商品価値を高めて収益を生む。利益を出すことは決して悪ではありません。企業の存在価値は適正な利潤を上げ、それを社員や株主に還元するだけ、納税を通じて国や地域にも公正に還元することにあるはず。税金を納められない企業ばかりでは、日本経済は成り立ちません。

井水 自然豊かな埼玉県秩父市で生まれ育った企業として、社外における環境保全活動にも熱心に取り組まれているようですね。

酒巻 山の緑豊かな秩父市は、植林活動は、これまで数万人にわたって行われてきました。都府県の水源地である荒川上流に拠点構えているからには、下流の人々に迷惑はかけられません。「おさんいもいもを」というものづくりの発想と二階です。初めて参加する新入社員たちは「何で植林、山の手入れ。」と感じますが、これが変わるんです。「やっぱり大事な仕事なんです」。

会社に戻ればまず節水だけでなく、節電・節ガスに努めます。それが環境経営すべてにつながっていくのです。江戸時代から続く植林・計画伐採は、自然環境の大切さを知っている日本人が世界に誇れる文化でもあるので、

5年計画で1500億円目指す

井水 最後にになりましたが今後の業績見通しと事業展開についてお教え下さい。

酒巻 前期も増収増益を予想していますが、2011年73期も増収増益を予想しています。デフレ基調で厳しい経営環境が続きますが、生産性向上活動によるムダと不良の徹底排除を突き、高機能、高品質、低コストの製品を提供していきます。世界トップレベルの高収益企業となるべく、売上高経常利益率15%を目標と定めています。

指しており、同比率では前年度に比べ1ポイントアップの13%を見込んでいます。生産性向上とともに新事業展開を進めます。親会社のキヤノンがカメラで培った光学技術を生かして複写機などに展開したように、キヤノン電子はコアとしてスキャナー技術で優位性があり、それをベースとした展開がメインになります。企業の合併・買収(M&A)についてもこれまでどおり、前向きに考えています。販売で相乗効果が期待できるスキャナー技術関連のソフトウェア会社などがターゲットになるでしょう。

将来の事業につながるベンチャー支援も手掛け、新事業の芽がどんどん出る会社にしたいですね。今まで以上に世界市場へ目を向け、必要があり、外国人材の採用も増やします。人材育成と併せて、新事業の芽を大きく育てられるような環境づくりに取り組んでいます。また、環境経営の延長線上で製品化した業務用の生ゴミ処理機も、かなり売っていきま。ゴルフ場でレストランの食べ残しを肥料にして散布する「おさんいもいも」の緑のイメージを維持できる」と評判です。社員教育の観点から、知恵の新しい分野へ挑戦することの醍醐味を体験させる意味合いもあります。

井水 中長期的な事業計画はありますか。

酒巻 前年度の売上高は1211億円、今年度は1230億円を見込んでいますが、5年計画で1500億円を目指しています。経常利益は目標とする利益率15%を達成する225億円になります。それを達成するために新規事業を含めての目標は、1500億円を補うのか、具体的な検討作業に入りました。

井水 お話を聞いています。その達成も間違いのないような気がしますが、本日はありがとうございました。

環境経営実践で人間の基礎づくり

井水 社員教育の観点からも、環境経営を徹底する意味があるとお聞きしました。

酒巻 環境を大事にする人間は優しいです。環境の基本は、自分が汚して他人に迷惑をかけるだけにする。我々が次の世代にできるだけ、いいものを残してあげたいと思うのは、優しさがあること。環境経営は社員を思いやりのある人間に変えることができるテーマなんです。

周りに迷惑をかけず、次の人が困らないようにやるのが習慣として身に付けば、企業は必ず儲かるようになります。次の人のことを考えずにやるから不良やトラブルが起るんです。一方の指示や伝達にのみ、確認し合うだけでもミスは激減します。企業は良好な人間関係が基本であり、コミュニケーションの第一歩となるあいさつが根付くだけでも大きな効果が出ます。

「環境」とは、人間の考え方そのもの。環境

経営の実践が人間の基礎づくりになるのです。利己的にならず、子供のころのようにもろいことを純粋に見て素直に受け入れ、咀嚼して迅速に行動を起こせるようになってきます。

一方、地球温暖化についてはさまざまな意見があるように、環境問題では抽象論を交わす議論の機会も多くなります。抽象論を交わす問題を的確にとらえることは、社会人に求められる素養の一つ。それを通じて創造力が養われます。

環境経営が人を育て、商品価値を高めて収益を生む。利益を出すことは決して悪ではありません。企業の存在価値は適正な利潤を上げ、それを社員や株主に還元するだけ、納税を通じて国や地域にも公正に還元することにあるはず。税金を納められない企業ばかりでは、日本経済は成り立ちません。

井水 自然豊かな埼玉県秩父市で生まれ育った企業として、社外における環境保全活動にも熱心に取り組まれているようですね。

酒巻 山の緑豊かな秩父市は、植林活動は、これまで数万人にわたって行われてきました。都府県の水源地である荒川上流に拠点構えているからには、下流の人々に迷惑はかけられません。「おさんいもいもを」というものづくりの発想と二階です。初めて参加する新入社員たちは「何で植林、山の手入れ。」と感じますが、これが変わるんです。「やっぱり大事な仕事なんです」。

会社に戻ればまず節水だけでなく、節電・節ガスに努めます。それが環境経営すべてにつながっていくのです。江戸時代から続く植林・計画伐採は、自然環境の大切さを知っている日本人が世界に誇れる文化でもあるので、

5年計画で1500億円目指す

井水 最後にになりましたが今後の業績見通しと事業展開についてお教え下さい。

酒巻 前期も増収増益を予想していますが、2011年73期も増収増益を予想しています。デフレ基調で厳しい経営環境が続きますが、生産性向上活動によるムダと不良の徹底排除を突き、高機能、高品質、低コストの製品を提供していきます。世界トップレベルの高収益企業となるべく、売上高経常利益率15%を目標と定めています。

指しており、同比率では前年度に比べ1ポイントアップの13%を見込んでいます。生産性向上とともに新事業展開を進めます。親会社のキヤノンがカメラで培った光学技術を生かして複写機などに展開したように、キヤノン電子はコアとしてスキャナー技術で優位性があり、それをベースとした展開がメインになります。企業の合併・買収(M&A)についてもこれまでどおり、前向きに考えています。販売で相乗効果が期待できるスキャナー技術関連のソフトウェア会社などがターゲットになるでしょう。

将来の事業につながるベンチャー支援も手掛け、新事業の芽がどんどん出る会社にしたいですね。今まで以上に世界市場へ目を向け、必要があり、外国人材の採用も増やします。人材育成と併せて、新事業の芽を大きく育てられるような環境づくりに取り組んでいます。また、環境経営の延長線上で製品化した業務用の生ゴミ処理機も、かなり売っていきま。ゴルフ場でレストランの食べ残しを肥料にして散布する「おさんいもいも」の緑のイメージを維持できる」と評判です。社員教育の観点から、知恵の新しい分野へ挑戦することの醍醐味を体験させる意味合いもあります。

井水 中長期的な事業計画はありますか。

酒巻 前年度の売上高は1211億円、今年度は1230億円を見込んでいますが、5年計画で1500億円を目指しています。経常利益は目標とする利益率15%を達成する225億円になります。それを達成するために新規事業を含めての目標は、1500億円を補うのか、具体的な検討作業に入りました。

井水 お話を聞いています。その達成も間違いのないような気がしますが、本日はありがとうございました。

環境経営実践で人間の基礎づくり

井水 社員教育の観点からも、環境経営を徹底する意味があるとお聞きしました。

酒巻 環境を大事にする人間は優しいです。環境の基本は、自分が汚して他人に迷惑をかけるだけにする。我々が次の世代にできるだけ、いいものを残してあげたいと思うのは、優しさがあること。環境経営は社員を思いやりのある人間に変えることができるテーマなんです。

周りに迷惑をかけず、次の人が困らないようにやるのが習慣として身に付けば、企業は必ず儲かるようになります。次の人のことを考えずにやるから不良やトラブルが起るんです。一方の指示や伝達にのみ、確認し合うだけでもミスは激減します。企業は良好な人間関係が基本であり、コミュニケーションの第一歩となるあいさつが根付くだけでも大きな効果が出ます。

「環境」とは、人間の考え方そのもの。環境

経営の実践が人間の基礎づくりになるのです。利己的にならず、子供のころのようにもろいことを純粋に見て素直に受け入れ、咀嚼して迅速に行動を起こせるようになってきます。

一方、地球温暖化についてはさまざまな意見があるように、環境問題では抽象論を交わす議論の機会も多くなります。抽象論を交わす問題を的確にとらえることは、社会人に求められる素養の一つ。それを通じて創造力が養われます。

環境経営が人を育て、商品価値を高めて収益を生む。利益を出すことは決して悪ではありません。企業の存在価値は適正な利潤を上げ、それを社員や株主に還元するだけ、納税を通じて国や地域にも公正に還元することにあるはず。税金を納められない企業ばかりでは、日本経済は成り立ちません。

井水 自然豊かな埼玉県秩父市で生まれ育った企業として、社外における環境保全活動にも熱心に取り組まれているようですね。

酒巻 山の緑豊かな秩父市は、植林活動は、これまで数万人にわたって行われてきました。都府県の水源地である荒川上流に拠点構えているからには、下流の人々に迷惑はかけられません。「おさんいもいもを」というものづくりの発想と二階です。初めて参加する新入社員たちは「何で植林、山の手入れ。」と感じますが、これが変わるんです。「やっぱり大事な仕事なんです」。

会社に戻ればまず節水だけでなく、節電・節ガスに努めます。それが環境経営すべてにつながっていくのです。江戸時代から続く植林・計画伐採は、自然環境の大切さを知っている日本人が世界に誇れる文化でもあるので、

5年計画で1500億円目指す

井水 最後にになりましたが今後の業績見通しと事業展開についてお教え下さい。

酒巻 前期も増収増益を予想していますが、2011年73期も増収増益を予想しています。デフレ基調で厳しい経営環境が続きますが、生産性向上活動によるムダと不良の徹底排除を突き、高機能、高品質、低コストの製品を提供していきます。世界トップレベルの高収益企業となるべく、売上高経常利益率15%を目標と定めています。

指しており、同比率では前年度に比べ1ポイントアップの13%を見込んでいます。生産性向上とともに新事業展開を進めます。親会社のキヤノンがカメラで培った光学技術を生かして複写機などに展開したように、キヤノン電子はコアとしてスキャナー技術で優位性があり、それをベースとした展開がメインになります。企業の合併・買収(M&A)についてもこれまでどおり、前向きに考えています。販売で相乗効果が期待できるスキャナー技術関連のソフトウェア会社などがターゲットになるでしょう。

将来の事業につながるベンチャー支援も手掛け、新事業の芽がどんどん出る会社にしたいですね。今まで以上に世界市場へ目を向け、必要があり、外国人材の採用も増やします。人材育成と併せて、新事業の芽を大きく育てられるような環境づくりに取り組んでいます。また、環境経営の延長線上で製品化した業務用の生ゴミ処理機も、かなり売っていきま。ゴルフ場でレストランの食べ残しを肥料にして散布する「おさんいもいも」の緑のイメージを維持できる」と評判です。社員教育の観点から、知恵の新しい分野へ挑戦することの醍醐味を体験させる意味合いもあります。

井水 中長期的な事業計画はありますか。

酒巻 前年度の売上高は1211億円、今年度は1230億円を見込んでいますが、5年計画で1500億円を目指しています。経常利益は目標とする利益率15%を達成する225億円になります。それを達成するために新規事業を含めての目標は、1500億円を補うのか、具体的な検討作業に入りました。

井水 お話を聞いています。その達成も間違いのないような気がしますが、本日はありがとうございました。

環境経営実践で人間の基礎づくり

井水 社員教育の観点からも、環境経営を徹底する意味があるとお聞きしました。

酒巻 環境を大事にする人間は優しいです。環境の基本は、自分が汚して他人に迷惑をかけるだけにする。我々が次の世代にできるだけ、いいものを残してあげたいと思うのは、優しさがあること。環境経営は社員を思いやりのある人間に変えることができるテーマなんです。

周りに迷惑をかけず、次の人が困らないようにやるのが習慣として身に付けば、企業は必ず儲かるようになります。次の人のことを考えずにやるから不良やトラブルが起るんです。一方の指示や伝達にのみ、確認し合うだけでもミスは激減します。企業は良好な人間関係が基本であり、コミュニケーションの第一歩となるあいさつが根付くだけでも大きな効果が出ます。

「環境」とは、人間の考え方そのもの。環境

経営の実践が人間の基礎づくりになるのです。利己的にならず、子供のころのようにもろいことを純粋に見て素直に受け入れ、咀嚼して迅速に行動を起こせるようになってきます。

一方、地球温暖化についてはさまざまな意見があるように、環境問題では抽象論を交わす議論の機会も多くなります。抽象論を交わす問題を的確にとらえることは、社会人に求められる素養の一つ。それを通じて創造力が養われます。

環境経営が人を育て、商品価値を高めて収益を生む。利益を出すことは決して悪ではありません。企業の存在価値は適正な利潤を上げ、それを社員や株主に還元するだけ、納税を通じて国や地域にも公正に還元することにあるはず。税金を納められない企業ばかりでは、日本経済は成り立ちません。

井水 自然豊かな埼玉県秩父市で生まれ育った企業として、社外における環境保全活動にも熱心に取り組まれているようですね。

酒巻 山の緑豊かな秩父市は、植林活動は、これまで数万人にわたって行われてきました。都府県の水源地である荒川上流に拠点構えているからには、下流の人々に迷惑はかけられません。「おさんいもいもを」というものづくりの発想と二階です。初めて参加する新入社員たちは「何で植林、山の手入れ。」と感じますが、これが変わるんです。「やっぱり大事な仕事なんです」。

会社に戻ればまず節水だけでなく、節電・節ガスに努めます。それが環境経営すべてにつながっていくのです。江戸時代から続く植林・計画伐採は、自然環境の大切さを知っている日本人が世界に誇れる文化でもあるので、

5年計画で1500億円目指す

井水 最後にになりましたが今後の業績見通しと事業展開についてお教え下さい。

酒巻 前期も増収増益を予想していますが、2011年73期も増収増益を予想しています。デフレ基調で厳しい経営環境が続きますが、生産性向上活動によるムダと不良の徹底排除を突き、高機能、高品質、低コストの製品を提供していきます。世界トップレベルの高収益企業となるべく、売上高経常利益率15%を目標と定めています。

指しており、同比率では前年度に比べ1ポイントアップの13%を見込んでいます。生産性向上とともに新事業展開を進めます。親会社のキヤノンがカメラで培った光学技術を生かして複写機などに展開したように、キヤノン電子はコアとしてスキャナー技術で優位性があり、それをベースとした展開がメインになります。企業の合併・買収(M&A)についてもこれまでどおり、前向きに考えています。販売で相乗効果が期待できるスキャナー技術関連のソフトウェア会社などがターゲットになるでしょう。

将来の事業につながるベンチャー支援も手掛け、新事業の芽がどんどん出る会社にしたいですね。今まで以上に世界市場へ目を向け、必要があり、外国人材の採用も増やします。人材育成と併せて、新事業の芽を大きく育てられるような環境づくりに取り組んでいます。また、環境経営の延長線上で製品化した業務用の生ゴミ処理機も、かなり売っていきま。ゴルフ場でレストランの食べ残しを肥料にして散布する「おさんいもいも」の緑のイメージを維持できる」と評判です。社員教育の観点から、知恵の新しい分野へ挑戦することの醍醐味を体験させる意味合いもあります。

井水 中長期的な事業計画はありますか。

酒巻 前年度の売上高は1211億円、今年度は1230億円を見込んでいますが、5年計画で1500億円を目指しています。経常利益は目標とする利益率15%を達成する225億円になります。それを達成するために新規事業を含めての目標は、1500億円を補うのか、具体的な検討作業に入りました。

井水 お話を聞いています。その達成も間違いのないような気がしますが、本日はありがとうございました。

環境経営実践で人間の基礎づくり

井水 社員教育の観点からも、環境経営を徹底する意味があるとお聞きしました。

酒巻 環境を大事にする人間は優しいです。環境の基本は、自分が汚して他人に迷惑をかけるだけにする。我々が次の世代にできるだけ、いいものを残してあげたいと思うのは、優しさがあること。環境経営は社員を思いやりのある人間に変えることができるテーマなんです。